

# やまなし時代早見表

## 弥生時代の暮らし 今から約 2,300 ~ 1,700 年前

### 弥生時代の特徴

- ・ 水稻耕作の始まり
- ・ 金属器とガラスの加工
- ・ 織ものの技術
- ・ クニと支配者の出現
- ・ 祈りとマツリ

### 弥生時代後期の大きなムラ

かねのお 金の尾遺跡 (甲斐市大下条)



しゅつどどき 出土土器



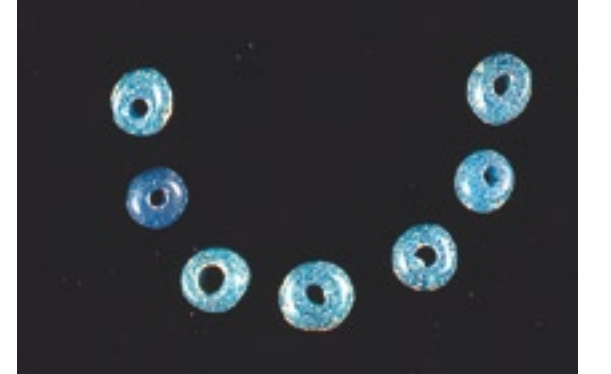
ませいせきぞく 磨製石鏃



たんか 炭化した米



ぼうすいしゃ 紡錘車



ガラス玉

今から約 1,800 年前のムラです。ここでは、家・墓・それらを区画する溝があり、当時の生活を知ることができます。また、土器以外にも、ガラス玉、武器として使われる磨製石鏃、糸を紡ぐ道具である紡錘車なども発見されています。

### 弥生時代の大きな骨壺

しもおうち 下大内遺跡 (北杜市明野)



今から約 2,000 年前には、土の中に埋葬した遺体が骨になったところを、もう一度、土器などの入れ物に入れ直して、埋葬する事も行われていました。

写真は北杜市教育委員会提供

### 県内最大規模の方形周溝墓群

うえのたいら 上の平遺跡 (甲府市下向山)



いせき 遺跡の全景



しゅつどどき 出土土器

弥生時代の終わりから古墳時代にかけて、方形に溝で囲んだお墓が造られます。墓の大きさには大小のものがあ、真ん中や溝に埋葬されていました。

### 県内最古の水田跡は、東日本最古級

みやのまえ 宮ノ前遺跡 (韮崎市藤井町)



写真は韮崎市教育委員会提供

今から約 2,300 年前に、稲作が行われていました。弥生時代の水田は、一つ一つの区画が小さいものでした。

### 稲作に使った木製農具が出土

みあらいざわ 身洗沢遺跡 (笛吹市八代町)



出土木製農具



しろかき 代かき

水田に残された足跡

弥生時代の水田では、形や使い方など、現在の農具とほとんど変わらない道具が使われていました。

### 弥生時代の金属器

弥生時代には、金属やその加工技術が朝鮮半島から伝わってきます。



どうきょうはへん 銅鏡の破片を大切にペンダントとして使っていました。

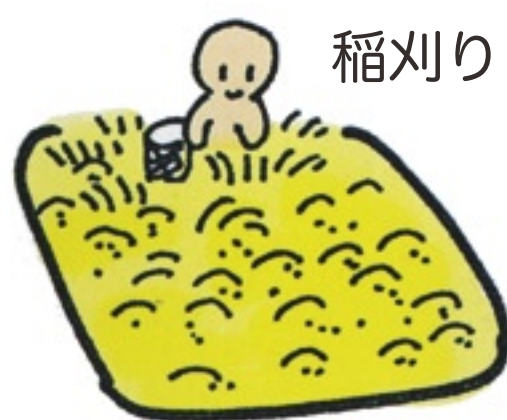
おさだぐち 長田口遺跡 (南アルプス市平岡)



かせん 「貸泉」という中国で作られたお金です。

こめくらやまび 米倉山 B 遺跡 (甲府市下向山)

### 稲穂を刈る、粉をする



稲刈り



たてきね 竝杵



いしほうちよう 石包丁



稲の穂先だけを刈り取ります